

ONE LOVE ガザに平和を

井代 亮子
ウイメンズネット旭川

先日、若い人たちが中心に声をかけているスタンディング・フエに参加した。旭川駅前にて、プラカードや、被り物や、旗(のよなもの)を持ったり、ガザ停戦、パレスチナの平和に向けて「私たちにできること」を読みまわすなど。出入り自由。言い出しっぱは二人の女性らしい。寒い冬から何回集まったか。「次回集まる必要が無くなればいいね」と続いている。「理不尽で不当

で人の権利を奪うどんな暴力も許したくない、ちゃんと声を上げ続けたい」「起こっていることをまるで起きていないように過ごす態度があまりにも溢れすぎている、怒っていいんだ、嫌だと言っていいんだということを示したい」と路上に立つ。SNSを見て市外から来られた方もいた。風の強い日だった。

その後作品展を開催中の古知屋恵子さんの紙芝居(大人向け)を私の店で演じていただいた。版画家、絵本作家である古知屋さ

んは作品展や紙芝居をしながら平和の事を話している「私たち作家が政治や世の中の事にあまりにも無関心していると、いつか絵本を作ること、絵を描くこともできなくなる、そんな時代を招いてしまわないために、今の事、過去の事を学び紙芝居にしていきたい」と話された。

今、原稿を書いている段階で、ガザの人たちに南に逃げると追いついてながらエジプト国境のラファをイスラエルが封鎖し市民への攻撃が止まらない。傷つき、飢え、死んでいく人たちの多くが子ども、女性、老人。日本軍の「三光作戦」を想起する。

国会前でポエトリリーディングをしている詩人・宮尾節子さんの詩に「明日戦争が始まる」という作品が多くの人に読み継がれている。

まいにち/ 満員電車に乗って/ 人を人とも/ 思わなくなつた
インターネットの/ 掲示板のカキコミ

で/ 心を心とも/ 思わなくなつた
虐待死や/ 自殺のひんばつに/ 命を命と/
思わなくなつた
じゅんび/ は/ ぼつちりだ
戦争を戦争と/ 思わなくなるために/
いよいよ/ 明日戦争が始まる

国際社会はウクライナを支援し、難民を受け入れ、ロシアに制裁する。パレスチナに対するこのダブルスタンダードはどうしたものか。無関心という暴力が21世紀にもなつて戦争を抱え、終わらせることができない要因ではないか。アバルトヘイト、ジェノサイド、この時代になつてもこんな言葉が並ぶ。アラブ文学者の岡真理さんは言う。「やがて世界はこの出来事を『パレスチナ人のホロコースト』の名で記憶するだろう。そして語るだろう。ガザのパレスチナ人の無数の物語を。(中略)それでもなお、ガザは甦る」